

製薬会社の文献サービス自粛後の当院の対応

— 文献依頼統計、CD-ROM利用統計 —

山 崎 捷 子

1. はじめに

中央図書室が当院に設置された10年前と比べてみると、最近、病院図書室を取り巻く環境の変化にはめざましいものがある。

本稿では、「病院図書室をとりまく情報環境の変化」、それに伴う「検索用ソフトの導入と当院図書室の対応」、および「文献入手サービス」について報告する。

10年前には、病院の図書室のような小規模な図書室でコンピュータを使用しているところはほとんどなかった。現在では、ほとんどの病院図書室が図書室業務にコンピュータを使用している。なかには数台のコンピュータを図書室に設置しているところもある。このような病院図書室の機械化、電子化のなかで、特に普及がめざましいのが文献検索用のCD-ROMである。また、最近では書籍や雑誌のフルテキストのCD-ROM版も出版され始めた。

中央図書室でも1995年暮に雑誌、単行本のCD-ROMを購入した。7冊の本が1枚のCD-ROMになった「今日の診療 Vol. 5」、「ハリソン内科書」、6年分の雑誌が1枚のCD-ROMになった「Pediatrics」、4年分の雑誌が1枚のCD-ROMになった「New England Journal of Medicine」などである。毎年増えつづける雑誌のスペース確保に頭をいためている病院図書室には、雑誌のCD-ROM版発行は、雑誌のスペース節約に有効な効果が期待でき

そうである。

今後は、単行本や雑誌のCD-ROM化の傾向がますます進み、さらに将来は、利用者自身がインターネットで直接資料を取り寄せることができるようになるであろう。

2. 病院図書室をとりまく情報環境の変化

次に、ここ2～3年の間に、普及率が3倍以上になった、病院図書室への文献検索用のCD-ROMについて報告する。

(1) 病院図書室のCD-ROM導入状況

1991年には近畿病院図書室協議会加盟の病院図書室の26%しかCD-ROMを導入していなかったが、1994年には約3倍の64%が導入している。この急激な文献検索用CD-ROMの病院図書室への普及は、公正取引委員会の勧告によって、1993年春に製薬会社が文献情報サービスの自粛に踏み切ったことが原因である。

(2) 当院の文献検索用CD-ROM利用状況

当院ではこの文献サービス自粛の前年の1992年に英語、日本語の文献検索用CD-ROM (MEDLINE、医学中央雑誌)を導入した。

1995年の当院のCD-ROMの利用内訳を見てみると(図1)、医師の利用が日本語、英語とも最も多いが、日本語版検索ソフトの導入によって看護婦のCD-ROMの使用が多くなった。看護婦の日本語版CD-ROMの利用は1992年には62件だったのに比べ、1995年には3

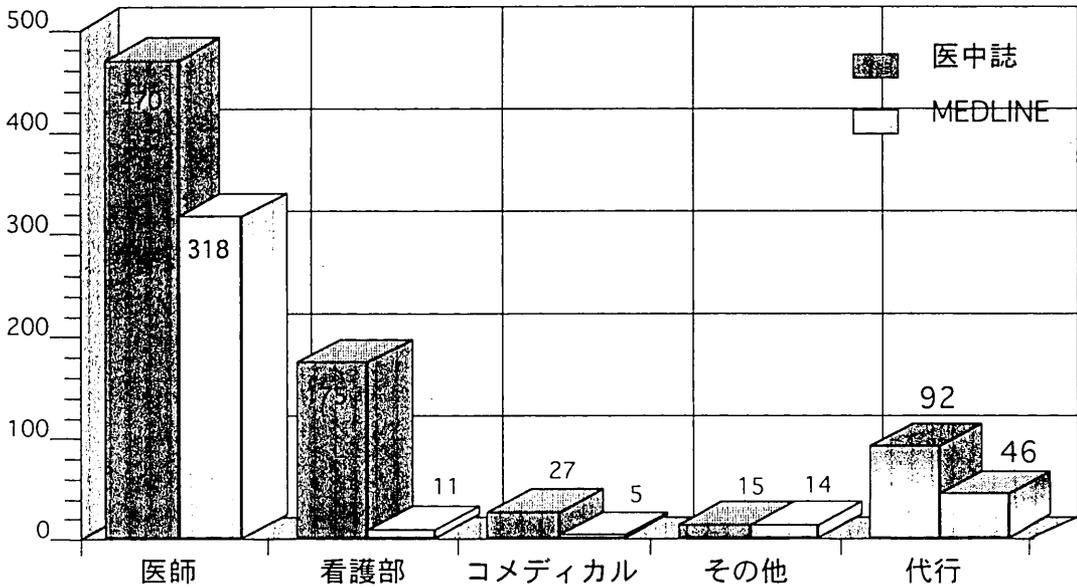


図1. 1995年 CD-ROM統計内訳

倍の175件と多くなっている。このうち代行とは利用者に代わって図書室担当者が検索を行ったものである。

(3) CD-ROM 検索マニュアル

また、看護婦の利用が多くなったことにより、図書室担当者は検索指導に追われるようになった。そこで、1994年に当院独自の利用マニュアルを作成した。このマニュアルは初心者でもわかるように「読むマニュアル」ではなく「見てわかるマニュアル」になるよう工夫した(図2)。

その後、利用者にアンケート調査を行い、1995年3月にマニュアルの改訂版を作成した。

最近4年間の当院のCD-ROMの使用状況を見てみると、マニュアルを作成した1994年には前年と比べて使用件数が約4倍になっている(図3)。

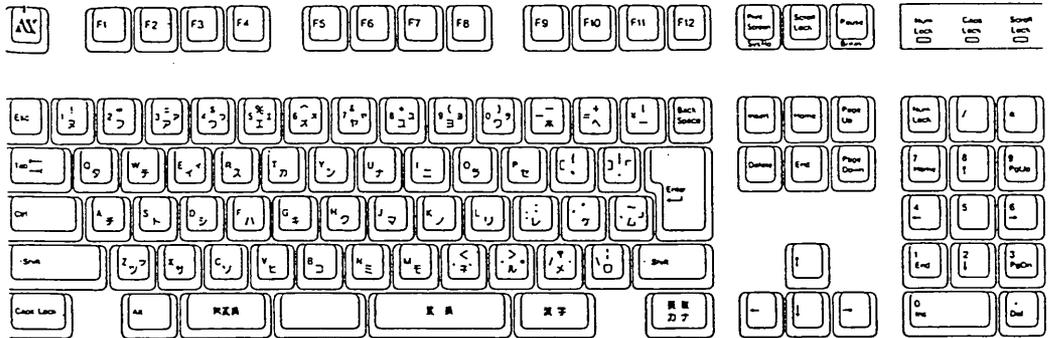
3. 文献入手サービスについて

製薬会社の医師への文献サービスの自粛は病院図書室担当者に大きな影響を与えた。それまで医師が製薬会社のMRに依頼していた文献複写の入手および文献検索はストップされ、困った医師は図書室に大量の文献依頼を持ち込んだ。図書室担当者は従来の仕事に加えて、大量の文献依頼業務を処理しなければならなくなり、仕事量が急激に増大した。

近畿病院図書室協議会でも、文献依頼のノウハウを求めて入会が相次ぎ、70会員から105会員に急増した。

(1) 当院の対応

当院でも、初めはどのくらい文献依頼があるか見当もつかなかった。しかし、1ヵ月後には約120件の文献依頼があり、コンピュータによる文献依頼処理を考えざるをえなくなった。そこで、当院コンピュータ・コンサ



- ② 次にキーボード上部の F 4 キーを押して「印刷」を実行して下さい。
- ③ 印刷の範囲を指定する時は、上・下キーで「全件」もしくは「範囲指定」を選びます。

<p>検索項目</p> <p>NO 全項目</p> <p>#000001 93252506 事務職員のための看護学 内科・外科的な健康問題をもつ壮年・ 中年の人びとの看護 小松浩子(聖路加看護大大学院) 保険診療 47巻 2号 Page61-67 (1992.2) 33C 1 看護学, 看護</p> <p>#000002 93252493 事務職員のための看護学 社会のなかの看護 黒田裕子(東医歯大) 保険診療 46巻 10号 Page61-67 (1991.10) 33C 1 看護学, 看護</p> <p>#000003 93252097 入院児の遊びと看護</p>	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="padding: 2px;">キーワード KW</td> </tr> <tr> <td style="padding: 2px;">ソールス TH</td> </tr> <tr> <td style="padding: 2px;">分類コード CC</td> </tr> <tr> <td style="padding: 2px;">著者名 AU</td> </tr> <tr> <td style="padding: 2px;">所属機関 AA</td> </tr> <tr> <td style="padding: 2px;">収録誌名 JN</td> </tr> <tr> <td style="padding: 2px;">文献番号 CN</td> </tr> <tr> <td style="padding: 2px;">履歴検索</td> </tr> <tr> <td style="padding: 2px;">絞り込み</td> </tr> <tr> <td style="padding: 2px;">チェック CK</td> </tr> <tr> <td style="padding: 2px;">副標目 SH</td> </tr> <tr> <td style="padding: 2px;">記事区分 CI</td> </tr> <tr> <td style="padding: 2px;">言語 LN</td> </tr> <tr> <td style="padding: 2px;">収録誌年 PN</td> </tr> <tr> <td style="padding: 2px;">収録誌巻 PK</td> </tr> </table>	キーワード KW	ソールス TH	分類コード CC	著者名 AU	所属機関 AA	収録誌名 JN	文献番号 CN	履歴検索	絞り込み	チェック CK	副標目 SH	記事区分 CI	言語 LN	収録誌年 PN	収録誌巻 PK
キーワード KW																
ソールス TH																
分類コード CC																
著者名 AU																
所属機関 AA																
収録誌名 JN																
文献番号 CN																
履歴検索																
絞り込み																
チェック CK																
副標目 SH																
記事区分 CI																
言語 LN																
収録誌年 PN																
収録誌巻 PK																
<p>本誌 年RN</p> <p>キーワード KW [カンゴ]</p>	<p>本誌 号RX 抄録有無AB</p>															
<p>復 帰(PF10)</p>																

図 2

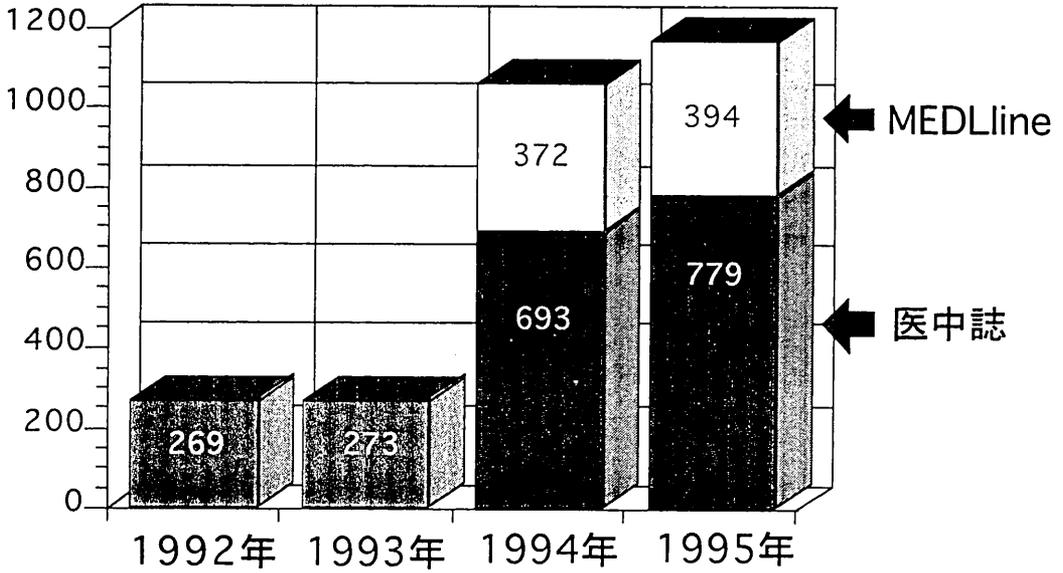


図3. YCH CD-ROM使用統計

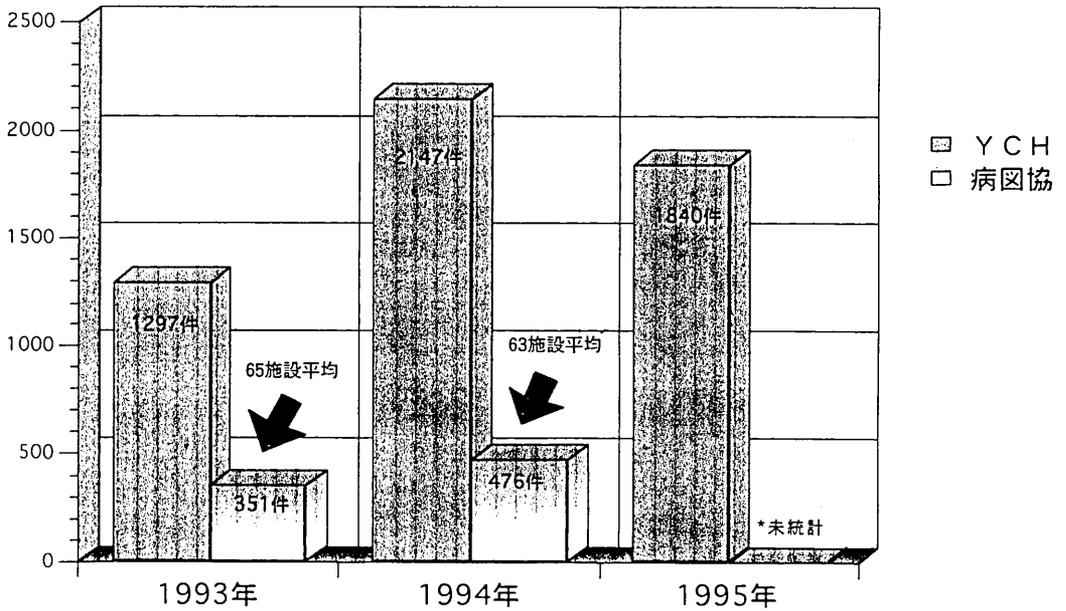


図4. 文献依頼統計

ルタントに相談し、当院独自の文献依頼処理システムを開発した。ソフトはロータス123を使用し、依頼先と申込者をコード化した。

(2) 文献依頼業務

次に文献依頼業務について簡単に説明したい。

他機関へ文献を申し込むためには、まず、どこの機関が、その依頼文献を所蔵しているかを調査する必要がある。そのためには分厚い雑誌総合目録で、1件、1件、所蔵している図書室を探さなければならない。

次に指定の書式に雑誌名、巻、号、ページ、著者、論題を1件、1件、入力しなければならない。

ところで、利用者はどのような形で図書室に文献申し込みをしているかというと、手書き、なかには判別不明のものや、CD-ROM 検索で打ち出した連続用紙に丸印をしたもの、または参考文献に丸印をつけたものが多く、これらの確認や所定用紙への転記は煩雑で時間がかかる作業である。

過去3年間のYCH（淀川キリスト教病院）と近畿病院図書室協議会の会員病院との

文献依頼件数を比較してみた（図4）。1993年の年間文献依頼件数を見てみると、近畿の他病院の平均が351件、YCHが他病院の4倍の1,297件であった。1994年の当院の件数は他病院の5倍の2,147件、1995年は1,840件であった。文献入手後の処理も含めると、文献依頼業務は大変な手間と時間がかかり、この間の私は（図5）のマンガのような状態であった。

4. まとめ

以上、図書室の仕事のうち文献情報の検索、入手を中心に実状を報告した。これからも、ニューメディアを活用して、めまぐるしく変化する情報環境に対応していきたいと考えている。

また、職員の情報入手の要求に応え、研究と教育を支援し、情報メディアと利用者をつなぐキーパーソンとしての役割を果たしていきたい。

このような環境での図書室の機能、担当者の仕事を理解していただき、図書室に対する一層の理解と支援をお願いしたい。

